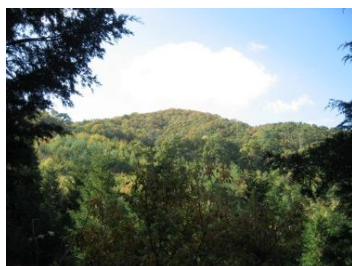


29. 神石郡神石高原町最高峰 大行山 (881.0m) 神石郡神石高原町／庄原市



神石郡と庄原市(旧比婆郡)との境にある山。古代祭祀がなされていたのではと言われる旧比婆郡の御神山の近くにあり、修験者が修行に励んだ山かもしれない。

神石郡神石高原町	2017,4.1 推定
<面積>	381.98 km ²
<人口>	8,766人
<人口密度>	22.9人/km ²

【山行日】10月27日(金) ☆ 天候：快晴、無風

【参加者】3名

西田文雄 小川勝正 宮木一民

【コースタイム】

県庁北 8:00⇒ 広島 I C 8:40⇒ (中国自動車道) ⇒10:00 庄原 I C⇒夏森集落⇒10:50 営林署林道入口で駐車→徒歩→林道終点 11:10→12:00 山頂(昼食) 12:40 下山開始→13:00 林道終点 →13:30 営林署林道入口⇒14:00 庄原 I C⇒15:30 広島 I C⇒自宅 16:30
(実歩行時間：約 2.5 時間)

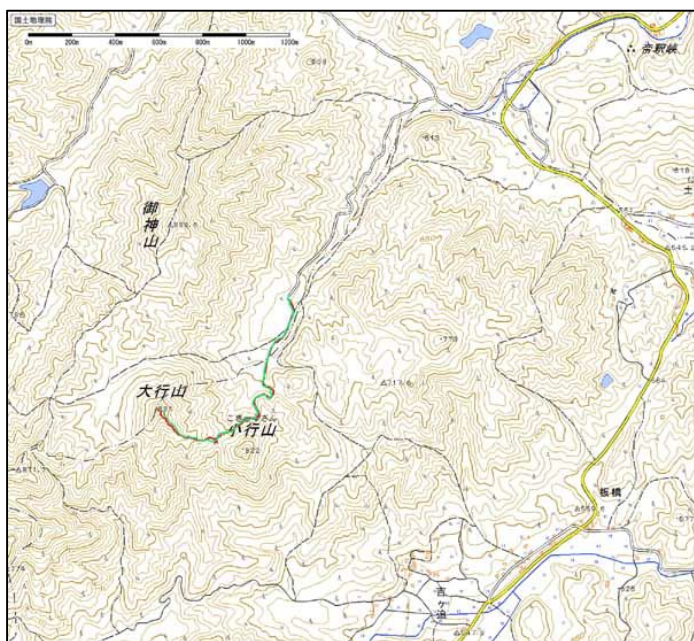
【報告】

神石高原町の夏森集落から県道 26 号線を南西に約 600m 行くと三叉路がある。

ここから西方の山地に向かって砂利道を約 300m 行くとまた三叉路となるので、これを南方に約 1.2 km 進むと御神山林道起点の標識がある。

ここに駐車して、舗装された林道を小行山に向かって歩く、やがて少し広がった峠になる。大行山はここから西方の尾根に取り付いて登る。

登り始めは腰高の笹が密集しているので泳ぐように進むが、やがて灌木の尾根を歩くようになる。先頭は灌木の空いたところを探して右に左にと進み、2 番手は登り道の途中で目印となる小枝に赤テープを約 15m～20m 毎に取り付け、3 番手はスマートフォンで尾根を登っていることを確認しながら進んだ。やがて露岩が出てきて、登りが急傾斜となって山頂に到達する。山頂は雑木林に囲まれ展望はない。山頂には営林署の標石がある。



昼食後は来た道を下山する。小枝の赤テープとスマートフォンを頼りに下る。あちこち目印があるので安心してかつ短時間に下山する。なお、枝に取り付けた赤テープは今回だけの目印なのですべて回収した。

登山の魅力には欠ける山であったが、久しぶりの藪漕ぎを満喫した。

登山の魅力には欠ける山であったが、久しぶりの藪漕ぎを満喫した。

(記 西田文雄)

大行山は修験場の山？

平成19年3月発行の神石ガイドブック編集委員会編「観光・文化財ガイドブック・神石編」には下記のような記述がある。

・・・大行山のある連山は御神山修験場と言われて大行山の北側に当たる庄原市東城帝釈見渡の御神山の888m及び大行山南側古川にある小行山822mと共に古い歴史を物語るもので、現地を踏査してみれば古い行者道らしい小道が巡って居り、帝釈永明寺の古記録にも修験僧の山伏修行のことが述べられていると言う。

大行山に源を發する小行山の清流が古川の吉ヶ迫に流れて滝を造っている辺りを塩川と呼び、この滝はみそぎの場とも伝えられている。その外には何もそれらしい跡は見当たらないが、神石郡の北端に最高峰が連なっているのである。

.....

大行山の裏側は地図の上では庄原市東城帝釈分ではあるが、昔から神石高原町古川の支配下にあつて今も全て古川の住民の所有地で吉ヶ迫の放牧場となつたままである。この大行山頂部は火口原を思わせる広い平原となつており、湯が原と呼ばれる。その一角に湯壺という湧水池があり、高所にもかかわらず常に清水が湧き出し、付近一帯は湿原となつており、その周りだけは雪もとどまらない所で、何か温泉を想像させるロマンがある。

今回の山行報告にあるように、今は登山道は荒れていて藪漕ぎ状態で、宗教色を感じさせるものは何もなかったようである。上記の本が発行されたのは10年前だが、たった10年ですいぶん変わるものである。神石は昔から名高い和牛の産地。古川の吉ヶ迫集落の放牧場が大行山裏側の庄原市側にあつたと書いてあるが、その放牧場は今はどうになっているのだろうか？

大行山の東、すぐ近くに庄原市と神石郡にまたがる帝釈峠があり、ここは景勝地として有名であるが、石灰岩地帯に残る洞窟を中心とした旧石器時代～近世までの遺跡群があることでも知られている。神石郡側には観音堂洞窟遺跡があり、一時、約2万年前の人骨が出土したと期待されたが鹿の骨であることが分かり、幻の帝釈原人になった。今は中断されているが、広島大学による発掘調査が続けられ、ここで発掘された遺物は、神竜湖畔にある「神石民俗資料館」に展示されている。

神石郡神石高原町最高峰 大行山山頂で



今までやまぼうしで登った神石郡高原町の他の山

記録なし